





源氏物語引歌索引

伊井春樹編

笠間索引叢刊 56

目次

凡例

桐壺……………	一	帚木……………	二三	空蟬……………	元	夕顏……………	三
若紫……………	四	末摘花……………	五	紅葉賀……………	六	花宴……………	六
葵……………	三	賢木……………	六	花散里……………	六	須磨……………	六
明石……………	二三	澤標……………	二三	蓬生……………	二六	関屋……………	二三
絵合……………	二四	松風……………	二五	薄雲……………	二四	朝顔……………	二四
少女……………	二五	玉鬘……………	二六	初音……………	二五	胡蝶……………	二五
螢……………	二六	常夏……………	二八	篝火……………	二七	野分……………	二八
行幸……………	二七	藤袴……………	二九	真木柱……………	二八	桜人……………	二八
梅枝……………	二九	藤裏葉……………	二三	若菜上……………	二九	若菜下……………	二九
柏木……………	二四	横笛……………	二三	鈴虫……………	二九	夕霧……………	二九
御法……………	二七	幻……………	二五	匂宮……………	二八	紅梅……………	二七
竹河……………	二九	橋姬……………	二四	椎本……………	二〇	総角……………	二九
早蕨……………	三三	宿木……………	三六	東屋……………	三九	浮舟……………	三四

蜻蛉……………三三

手習……………三二

夢浮橋……………三七

和歌・歌謡索引……………三九

あとがき

凡 例

一 古注釈書から現代の注釈書まで、本文の解釈のために引用した和歌(引歌)、歌謡を、できるだけ広い立場から採録した。各時代の注記者が、どのような和歌を背景にして本文を読みとろうとしていたのか、その実態を知ることができるとするものである。

一 紫式部と同時代の人物の歌や、後世の和歌集でも「読人しらず」とする歌については採用したが、たんに同類語や、用法・句法の説明のために示された和歌については、一切省略した。

一 本文は『源氏物語大成』本により、上段にその頁行数を、下段に日本古典文学大系本(岩波書店)の頁数を示した。なお、便宜をはかるため、各巻ごとの通し番号を付した。

一 古注の中には、河内本および別本の本文によって引歌を示した例もある。その場合には、青表紙本以外の異文を『源氏物語大成』から摘記した。

一 使用した注釈書の略号と本文は次の通りである。

積前 源氏釈 (前田家本、『源氏物語大成』所収)

釈宮 源氏釈 (宮内庁書陵部蔵、桐壺・明石巻残欠本)

釈書 源氏釈 (宮内庁書陵部蔵、「源氏物語注釈」所収本)

奥 奥入 (『源氏物語大成』所収本)

最 原中最秘抄 (阿波国文庫旧蔵、同右所収本)

- 紫 紫明抄 (京都大学国文研究室蔵、玉上琢弥編角川書店版)
 異 異本紫明抄 (宮内庁書陵部蔵・ノートルダム清心女子大学蔵、古典叢書本)
 古 源氏物語古註 (『未刊国文古注釈大系』所収本)
 河 河海抄 (天理図書館蔵、玉上琢弥編角川書店版)
 花 花鳥余情 (静嘉堂文庫蔵)
 弄 弄花抄 (広島平安文学研究会、翻平安文学資料稿)
 一 一葉抄 (同右)
 細 細流抄 (内閣文庫蔵、伊井春樹編桜楓社版)
 休 休聞抄 (内閣文庫蔵)
 紹 紹巴抄 (版本)
 孟 孟津抄 (宮内庁書陵部蔵)
 屋 花屋抄 (内閣文庫蔵)
 岷 岷江入楚 (『国文註釈全書』)
 湖 湖月抄 (積善館本)
 引 源氏物語引歌 (宮内庁書陵部蔵)
 拾 源註拾遺 (岩波版『契沖全集』第九卷)
 新 源氏物語新釈 (『賀茂真淵全集』巻八、巻九)
 玉 源氏物語玉の小櫛 (筑摩版『本居宣長全集』第四卷)

余 源注余滴〔『国書刊行会叢書』〕

全 日本古典全書『源氏物語』（朝日新聞社）

校対源氏物語新釈（平凡社）

事 『源氏物語事典』下巻所収「所引詩歌伝典」（東京堂）

大 日本古典文学大系『源氏物語』（岩波書店）

評 源氏物語評釈（角川書店）

集 日本古典文学全集『源氏物語』（小学館）

一 和歌・歌謡の引用に際しては、次の諸点に留意した。

1 『奥入』や『源氏物語引歌』は、本文がなく歌を例示するだけなので、配列や他の諸注などから判断して、該当する部分を想定して記入した。

2 歌謡の異文については、『源氏釈』と『奥入』に限り、その後の諸注は書名を列記するにとどめた。

3 長歌について、（一部ノミ）とするのは、注釈書に一部しか引用されていないことを示す。

4 諸注の指摘で、「」を付したのは全文引用してあること、へくの符号によるのは、たんに「引歌」とか、「催馬楽、竹河」、「遍昭歌」と注記してあるにすぎないことを示す。

5 諸注の表示で、

〔紫〕〔異〕〔河〕なにかもみえず、〔孟〕我かもまよふ、〔引〕

とある場合、初めの三注釈書の異文は「なにかもみえず」であり、次の『孟津抄』は「我かもまよふ」、『源氏物語引歌』は出典通りであることを意味する。

6 『源氏釈』『異本紫明抄』に収載される桜人巻については、問題があるにしても一応注釈書通り真木柱巻の次に挿入した。

一 和歌の出典については、『国歌大観』正統を中心とし、番号もそれによった。その他引用した書目を示しておく。

『古代歌謡集』(古典文学大系)・『和漢朗詠集』(同上)・『宇津保物語』(同上)・『篁物語』(同上)・『新撰万葉集と研究』(未刊国文資料)・『多武峯少将物語』(玉井幸助著)・『一条摂政御集注釈』(平安文学輪読会)

このほかも、日本歌学大系・桂宮本叢書・私家集大成・物語和歌総覧を参照し、また一部引用もした。

一 本書を編むにあたっては、各種の文献を参考にしたが、とくに玉上琢弥博士による「所引詩歌仏典」(『源氏物語事典』下巻所収)には、多大な御学恩を被った。

●編者紹介

伊井春樹(いゐ はるき)

昭和43年3月、広島大学大学院博士課程退学。

現在：大阪大学文学部教授、文学博士。

編著書：『内閣文庫本細流抄』(桜楓社)，
『明治俳句短冊集成』(共編，講談社)，
『源氏物語入門』(共著，桜楓社)，
『源氏物語の伝説』(昭和出版)，
『松永本花鳥余情』(桜楓社)，
『源氏物語注釈史の研究』(桜楓社)，
『源氏物語論考』(風間書房)。

源氏物語引歌索引

●笠間索引叢刊 56

昭和52年9月30日 初版発行

昭和57年10月30日 再版発行

平成6年10月10日 再版第2刷発行

検印
省略

編者 伊井春樹◎

発行者 池田つや子

発行所 有限会社笠間書院

〒101 東京都千代田区猿楽町2-2-5

☎03-3295-1331 (代) 振替00110-1-56002

ISBN4-305-20056-2

三美印刷・渡辺製本所

(本文用紙：中性紙使用)